府立城陽支援

情報モラル身

SNS「細心の

城陽市中芦原の府立城陽支援学校（湯川正雄校長）で2日、SNSをテーマにした情報モラル教室が開かれ、高等部ビジネス総合科の1・2年生42人がアドバイスに耳を澄ませた。

府警スクールサポーターの注意に耳

コロナ感染防止を考慮し、学年ごとに教室を分けた。2年生には、府警生活安全部少年課に相談した

に相談したオンラインを指摘した。

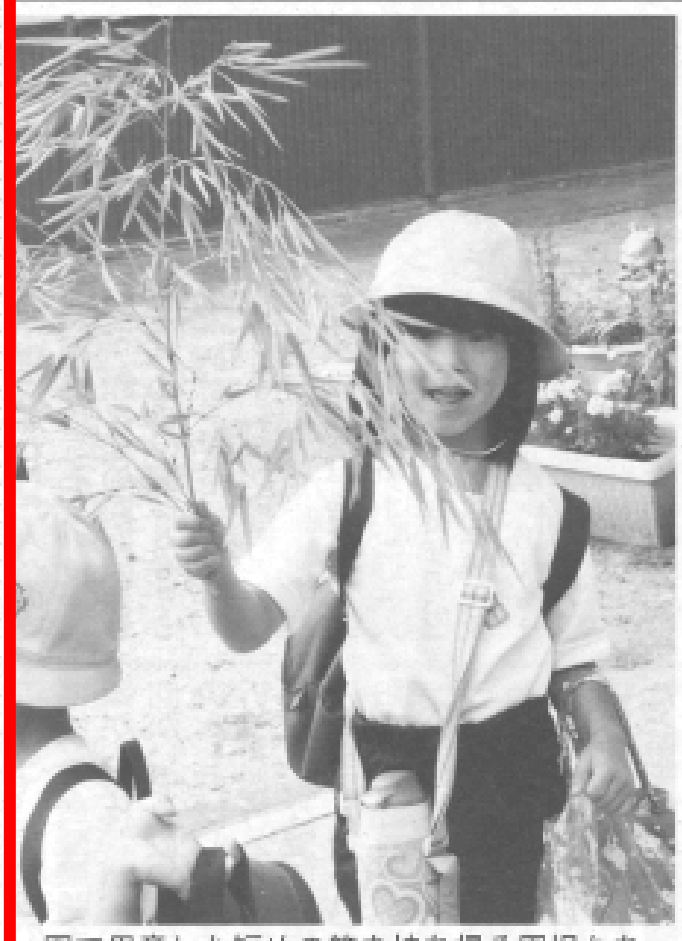
「グーグルマップ、使うやろう」と気さくに話し掛け、「写真や動画の中には背景に自分以外の他人などたくさんの情報が含まれる」と述べ、「投稿は細心の注意を払って」と念を押した。

爆破予告など軽はずみな「いたずら、悪ふざけはダメ。脅迫罪、威力業務妨害罪に当たる」と注意。「ゲーム

強調した

契約時に名前や住所を伝え、アプリをインストールすれば個人情報は飛び交うのも踏まえ、「名前、学校名、住所、年齢、性格を教えちゃダメ！会いに行ったらあかん」「アイテムを買うための課金もよく考えて。買うならプリカ。自分で管理を」と声を強めた。

なお、22日には3年生18人が教室を受講する。



園で用意した短めの笹を持ち帰る園児たち

「おうちに帰って家族で飾り付けをしてね」

女性用の下着盗んだ男逮捕

城陽署

城陽署は2日、宇治市大久保町南ノ口、会社員、松本郁哉容疑者（21）を窃盗の疑いで逮捕した。

調べによると、同容疑者は先月17日午後11時55分ごろ、城陽市内

ランチ支えるお母さん

さんさん「人と社会変える」

調理師、支援員の田中容子（よしこ）さん

京田辺市にある「さんさん山城」（新免修施設長、藤永実管理者）は2011年の開所以来、聴覚障害を持つ人の就労支援に始まり、知的障害がある若年利用者も年を追うごとに増えている。地元ゆかりの産物を栽培し収穫する農業をはじめ、喫茶、縫製、販売などの部門でそれぞれが持ち味を発揮し、時には横断的に活動する利用者と職員の日々、現在に至る「人生賛歌」をシリーズで綴る。

愛燦燦（さんさん）（1）

当初、デイサービスのみだった居場所に支援員として携わるようになった田中容子（よしこ）さん（65）＝京田辺市薪＝は、11年に就労支援事業所となった「さんさん」のお母さんのような存在。「気分よく仕事をしてもらうのが一番」と、自覚する役割を体現している。

春夏秋冬、朝は7時30分に出勤し、コミュニティカフェで提供する日替わりランチの段取りを真っ先に開始。「メニューによって、やることが異なる」と、田辺ナス丼や天ぷら定食、夏野菜カレー、"京たな鍋"定食など多彩なラインナップに合わせて、「利用者にしてもらう作業は、ちょっと忙しいぐらいが、ちょうどいい」と、調理スタッフそれぞれの得手、不得手も把握しながらさじ加減を調える。時間が掛かる煮込み、野菜や揚げ物の下準備など、毎日、頭の中で算盤を弾いて、作業を分担し、午前11時過ぎには営業が開始できる万全の体制まで持っていく。

調理スタッフは現在、80代2人を含む50～80代の女性数人を中心に、ホール係やレジ担当の利用者、職員のほか、ボランティアも入ることがある。常連客の中には手指で大盛りを示すなどコミュニケーションを深める場面も多々見られる。原則平日の午前11時30分から開店し、売り切れ次第終了のワンコイン（500円）日替わりランチは毎日50食以上を販売し、売り切れる日も多い。

先月に丸3年を迎えたカフェは玄関入ってすぐの広いスペースに展開。ランチは一般提供を前に、「ここで作った野菜を使い、みんなができる美味しいもの」をコンセプトに、単一メニューにするかで意見が分かれた。田中さんは「絶対一つで、日替わりにした方がよい」と主張し受け入れられると、エビイモコロッケで100食を販売する人気ぶりも見せ、その後もサラリーマンや女性グループなど年齢や性にとらわれない幅広い客層が足を運んですっかり定着している。

十数年前まで転勤が多かったという田中さんは富山で約6年間、手話サークルに所属し、「耳が聞こえないおじいちゃん、おばあちゃんとやり取りできたことに感謝です」と振り返る。京田辺に移ってからもひよこサークル、一休といった手話サークルに属し、手話通訳者として利用者らとコミュニケーションも盛んに交わす。

「さんさんでは第1言語が手話。手話をできへん人が困る。社会を、人を変えている」と声を強める。

さんさんでは、調理や事務をこなし、イベント出店、茶の木の定植など欠かせないキーパーソン。

「さんさんに命を捧げています」と胸を張るほどに愛し、「ここで収穫した旬のものをメニューに取り入れていきたい」と熱意は飽き足らない。